

平成29年度 行事 総括

・ 行事回数：53回(60) ・ 参加者：158名(123)

・ 延参加者：604名(510) ・ 延参加日数：794日(700)

(括弧内は昨年度)

昨年に比べて行事回数は7回減少したが、延参加者604名(18.4%)、延参加日数794日(13.4%)と共に増加した、一行事あたりの参加者は、8.5人から11.4人と2.9人多くなりました。

これは、役行坐像の開眼供養(88名)、東大学生等の体験学習(28名)、忘年会と総会兼祝賀会(88名)への参加者が多かったことにも起因している。この一年を振り返ると十二項目の特記事項があり列挙致します。

一、新春初山行「十津川村・ムネドチの頭(Ⅲ△1018.1m)

及び石佛山(1158m)一周

実施日：1月2日。平成19年度に登られているが、登られていない方もあり、再登頂となり21名が参加した。

途中、西に法主尾山く行仙岳、東に釈迦ヶ岳方面の奥駈道の山並みの素晴らしい眺望が見られた。

山頂標識を再設置して、山頂は狭いが万歳三唱！を行い幸先の良い年初行事となった。瀧本氏と炉端山友会の8名は、石佛山を経て下山された。

二、第58回十二支会例会「岐阜・金鶏山Ⅱ△407.4m」協賛行事

実施日：1月15日～16日。前夜祭は岐阜市・長良川温泉「十八楼」に57名が集い、当ぐるーぷから会員6名+ビジター5名が参加して親睦を深めた。尚、前山として岐阜城・金華山(Ⅱ△328.9m)を見学・登頂した。

金鶏山は、別名「古城山、点名は大桑城山」と呼ばれ、登山道沿いに所々史跡跡がある。積雪が20～25cmあり、全員南麓コースから登る。小雪の舞う中登るが、次第に晴れ間が広がる。

山頂下の祠前の広場横にミニチュア大桑城天守閣があり、一登りすると狭い山頂の金鶏山である。今西流の万歳三唱！と慶祝行事(当ぐるーぷ山上さんは米寿)が行われ、乾杯は祠前広場に降りて行なった。下山後、別行動の山上車と別れ帰新した。

三、前鬼の里への古道(旧前鬼道の牛抱坂・牛抱峠)踏査

実施日：3月18日・25日、4月5日の3回踏査を実施した。尾根道の牛抱坂・牛抱峠は顕在であるが、山腹を横捲く道(トラパス道)が斜面崩落等で不明瞭であり、元通りの旧道を歩くことは困難であるが、新たな横捲き道を作り、牛抱坂く牛抱峠く前鬼・小仲坊をつなぐ山道を今後整備して行きたい。

四、行仙宿・行者堂に修復「役行者像」安置と

「役行者尊像」の開眼供養法要・慶讃採灯護摩供

昨年7月に、熊野修験(高木亮英師他3名)で「役行者像」の油性根抜きを行い、奈良市の浅村朋伸・仏師に修復を依頼した。

修復中に胎内文書が見つかり、元禄15年(1708年)に作製した像と判り。寄贈元の聖護院門跡に連絡し、原文を返納し聖護院古文書室にて保管して頂く事になった(1月19日)。

4月14日：聖護院門跡・宮城泰年ご門主様揮毫の願文文書が新たに胎内に納められた「役行者像」が行者堂に安置された。

5月17日：聖護院門跡・宮城泰年ご門主、中村覚祐・執事長他4名の御出仕を賜り「役行者尊像」の開眼供養法要と慶讃採灯護摩供が、総勢58名が参席して、荘厳に執行された。その後「直

会」を実施し、記念品に紅白餅+聖護院八橋を持帰って頂いた。

五、日本山岳会(JAC)「大峯奥駈道山行(前鬼く本宮)一行」と

行仙宿で交流懇親会開催

5月22～23日；山行委員会企画の大峯奥駈道山行に参加の10名と当る一歩6名が、行仙宿に集い交流懇親会を開催して親睦を深めた。尚、21日に持経宿宿泊の際、夕食弁当調達を依頼され持参した。

六、南奥駈道の行仙宿く上葛川間で行方不明者の搜索

実施日；6月3日、11日、13日、24日、7月15～16日(遭難関係者と合同)。5月18日に行仙宿へリポートでテント泊し、翌朝3時頃に出発して上葛川からバスに乗るといふメールを入れた大阪の男性(62歳)が行方不明になり、下北山村・十津川村の両職員・警察・消防隊員が搜索したが見つからず、5月23日に搜索が打切られた。

槍ヶ岳く地藏岳の鎖場辺りの岩場下は、搜索されていない事から、ザイル懸垂下降で50m下まで降りて搜索したが見つからず。我々で5回搜索(延べ72名)を行ったが、残念ながら未だ行方不明者の発見に至っていない。

七、楊子ノ宿付近の倒伏石柱道標復元と歩行危険箇所確認・補修

7月22～23日；天候などにより延期になっていた楊枝ノ森寄りの倒伏石柱道標1本を復元した。又、楊子ノ宿傍の崩落斜面をトラバースする歩行危険箇所(2箇所約10mと15m)を確認し、新規に高巻き道を補修した。(5/20に整備した道の確認・補修)

トラバース道の危険度は、個人差と天候に左右されるので、自己責任で通行して頂く事から「崩落」標識と高巻き道への誘導口

ープを設置したが「通行止め」標識を設置しなかった。

この折に、釈迦ヶ岳く楊子ノ宿の奥駈道に覆い被さる笹(ミヤコザサ)は、青木・山口氏により笹刈りをして下さり、足元が見え易くなり、より安全に歩き易くなった。

八、東北三山など(鳥海山、羽黒山三神合祭殿、月山、

蔵王山・熊野岳遠征登山

実施日；8月25日～28日。昨年の四国遠征に続くシリーズとして22名が参加した。25日に伊丹空港から秋田空港へ、窓から鳥海山が望める天候に回復したが、26日に鳥海山へ登ったが、体が飛ばされる強風により7合目・御濱小屋から撤退。急遽、羽黒山三神合祭殿に登拝。27日に月山(1979.8m)に登頂、帰路バス故障により代替バスを約2時間待つハプニングがあった。28日に蔵王山・熊野岳(II△1840.3m)に登頂し熊野神社で椎木氏導師にて勤行した。仙台空港から伊丹空港に無事戻り帰宅した。

九、行仙宿にて「東京大学生・院生・教授他関係者(15名)」

の体験学習(水汲み・行仙岳往復、薪割り)

実施日；9月1日。新宮市役所・生涯学習課の企画に基づき、大学生9名、院生2名、名誉教授他4名が行仙宿にて、水汲み、世界遺産奥駈道(行仙岳往復)歩行、薪割りの体験学習を行なった。「水は命なり」を実感して頂いた。又、水場から飲料水10Lを背負い上げる学生など、体力を備えた頼もしい学生達でした。

十、小池の宿跡く黒谷の頭(点名；黒谷峠III△1333.7m)の踏査

実施日；10月9日。小池の宿への道標は、平成13年に設置され、平成21年と22年にテープ目印等追加して来たが、最近

ネット上に朽ちた道標が掲載されている事から、道標再設置と会
行事初踏査になる黒谷の頭への登頂に16名が参加した。

十一、南奥駈道の台風21号・22号の被害調査と復旧

①前鬼・小仲坊く太古ノ辻く大日岳く関伽坂尾根

大日岳・大日如来坐像が台座から脱落している事、前鬼・小仲坊く太古ノ辻間に支障となる倒木が在る事がネット画像などで判った。とりわけ、大日如来坐像は、釈迦ヶ岳・釈迦如来立像と一緒に、大正13年に強力・岡田雅行(通称オニ雅)が、担ぎ上げた像であり、台風の影響以外の腐蝕等が懸念され、被害調査と復旧に11月12日に赴いた。ほんみち教の人達により台座に乗せられていたが、台座の向きが異なり、一旦降ろして、台座下の石組を積み直し復旧したが、台座と坐像を固定するボルトが3本とも欠落し不安定の為、ザイルで両脇の立木に結わえて転落防止の応急策とした。台座からの転落により、宝冠の一部欠落と右手首にひび割れの亀裂が生じていた。

前鬼・小仲坊く太古ノ辻間及び関伽坂尾根の風倒木は、チェーンソーで切除した。

②七越峰く玉置辻(本宮辻)く玉置神社

11月19日・26日；「十津川村のお知らせ」に10月23日より、崩落と倒木などで奥駈道(玉置神社く玉置辻(本宮辻)く七越峰)が、約1ヶ月経過したが通行止めになっているので、この間の点検巡視を実施した。

吹越峠辺りに風倒木が集中していたが、プロの地元森林組合等で切除され歩行可能になっていた。そこで山在峠く玉置辻(本宮辻)間を点検巡視した。山在峠く玉置辻(本宮辻)間の倒

木は、チェーンソー・鋸で切除し、落枝・腐倒木など除けて、通常の南奥駈道に戻った事を確認した。

玉置神社く玉置辻間は、玉置神社の約100m下った地点に未処置の倒木がある。この地点は玉置神社林(神域)であり、我々が行なえず、玉置神社に委ねる事にする。この地点の倒木は、くぐる等すれば歩行可能です。

十二、平成29年度の忘年会・総会兼卒寿・米寿祝賀会の開催

12月2日に阿須賀神社境内・阿須賀会館で38名が、参席頂き開催した。

卒寿；東 眞澄、米寿；山上皓一郎さんの慶祝者に、会より金一封(商品券)を贈呈し、益々お元気で過ごされるように慶祝した。

総会で新任世話人4名(濱野兼吉・児嶋道夫・中前 偉・梶野照雄)が選任補充され承認されました。又、世話人代表川島 功から沖崎吉信氏へ来年度末迄に引継ぐことになりました。

最後に、29年度の行事遂行に会友の皆さんからご支援ご協力を賜り感謝とお礼を申し上げます。しかし、会友の高齢化により一部会友に偏りがちで、次世代に引継ぐために新会友の勧奨が必要であり、皆様方も入会勧奨をお願い致します。

平成30年度には、台風による南奥駈道の倒木処理などの点検巡視に例年以上に労力が必要になります。又、大日岳・大日如来坐像の強固な石組と坐像亀裂等の修補については、前鬼山小仲坊・五鬼助義之様に協力して実施する所存です。

皆様方には、行事への参加にご理解頂き、引き続きご支援ご協力をお願いする次第です。

(文責 川島)